

本書は、aとthe——すなわち英語の冠詞——の使い方を、基本から応用まで説明し、これら「謎の記号」と自信をもってつき合えるようになるための本です。暗記のための本ではありません。読み進んでいけば、きっとaとtheの使い方や、そこに隠された、英語を使う人たちの考え方を納得できるようになるはずですよ。

この本を手にとられた方は、どのような関心をもっていらっしゃるのでしょうか。おそらく、aとtheの使い方がわからなくて、何か参考書を探している、あるいは英語力のアップを目指して本を探していらっしゃるのでしょうか。いずれにせよ、英語に対する興味と意識の高い方でしょう。

なぜ、筆者がそのように考えるのかというと、私たちの使っている言葉——日本語——には冠詞がないので、私たちはふだんaやtheに関心を払わないからです。日本語に冠詞がないので、英語の冠詞を見ても、私たちの目には、ただの「小さな記号」としてしか映りません。英語がもっとできるようになりたい、と願いながらも、冠詞に興味をもつ人は少なく、使い方もいいかげんです。

でも、冠詞の使い方は、「大人の」、「きちんとした」コミュニケーションには欠かすことができません。「なんとなく」ではない文章を話す・書くとき、きちんと文章を読むときには、絶対に必要なのです。なぜなら、(本文でくわしく説明しますが)冠詞は単語(名詞)の前に付ける矢印(→↑↓←)みたいなもので、正確なコミュニケーションには不可欠なもの、おおげさに言えば、冠詞の中には、相手の人が世界を、ものごとを、どのようにとらえているのかが、さりげなく隠れているからです。

私たちは、英語を読むとき、書くとき、話すときに、aを使うのか、theを使うのか、それとも何も付けないのか、不安で自信がないのです。でも、中学、高校と習ったことをうまく活かせば、冠詞はわかるようになります。もっと使えるようになり、コミュニケーションに活かせるようになります。けれども、英語、特に英文法の活かし方をきちんと教わっていないので、「学校で教わる内容が悪いから、冠詞が使えないのだ」と勘違いしてしまうのです。

「学校で冠詞の使い方なんて習ったっけ？ 自分は習っていない」とおっしゃる方もいるかもしれません。aとtheについてきちんと習った、と自信をもって言える高校生、大学生、社会人は多くはありません。この本は、そのような方でも安心して読んでいただけるよう、Part 1は一番の基礎から解説してあります。Part 2では、英語の正確な理解のために、冠詞の使い方について、もう一段深く検討しています。冠詞がよくわからない、という方には、まず、Part 1をじっくり読むことをおすすめします。各章の最後には、「まとめ」がついていますから、使い方の確認をしてみてください。

冠詞の学習には、いまの学校英語の弱点がはっきりと現れているようです。そのような状況を踏まえ、この本では、基本的な使い方から応用までを確認しながら、どうすれば次の段階、つまり、冠詞をもっと使いこなせるような段階にいけるのかを考えていくことにしましょう。

津守光太

本書には3つのキーワードが出てきます。本文を読みながら、折にふれて、次の説明を参照してみてください。

1. **モノ** (物)：この本のテーマである冠詞 (a / an と the) は名詞に付けるのが原則です。名詞は現実の世界に (あるいは私たちの想像の中に) 存在している物 (モノ) を指し示す言葉です。私たちは本 (book)、水 (water) などさまざまなモノに囲まれて暮らしています。一方、愛 (love) や幸せ (happiness) のような目に見えない (想像の中にある) モノもあり、共に私たちの周りにあって、私たちの生活を構成しています。
2. **カタチ** (形)：名詞には、数えられる場合 (可算名詞) と数えられない場合 (不可算名詞) がありますが、これはモノの「形 (カタチ)」と関係があります。カタチあるモノは数えられますが、water や love のようなカタチのないモノは数えることができません。
3. **リンクク** (輪郭)：「カタチ」のある、1つの「モノ」は「輪郭 (リンクク)」を描きだします。たとえば、自動車に後ろから光を当てると、全体は黒く見え、リンククだけがくっきりと浮かび上がります。ひと筆書きで描かれるようなリンククです。このリンククが a / an を付けるときの基準になります。a car という表現からは自動車のリンククが思い浮かびます。しかし、water や love にはカタチがないので、リンククを思い浮かべることはできません。一方、カタチあるモノでも、いくつかを同時に思い浮かべる場合 (複数の場合) は、ひと筆書きでなぞれるような「リンクク」は現れてきません。